

武田 俊彦（内閣官房 健康・医療戦略室 政策参与、ボストン コンサルティング グループ シニア・アドバイザー）

1959年、岩手県出身。1983年、東京大学法学部卒、厚生省入省。

大蔵省主計局、ジェトロ・ニューヨーク事務所、北海道庁への出向などを経て、1999年に大臣秘書官（丹羽雄哉厚生大臣）。2000年に医政局企画官。以後、主に医療分野を担当し、医政局経済課長として医薬品・医療機器産業を所管、同政策医療課長として国立高度専門医療研究センターを所管したほか、保険局国民健康保険課長、同総務課長で医療保険制度の企画運営を担当。その後、社会保障担当参事官、総務省出向（消防庁審議官）を経て、官房審議官（医療保険担当）、政策統括官（社会保障担当）、医薬・生活衛生局長、医政局長を歴任し、2018年退官。退官後、2019年に厚生労働省政策参与、2023年9月に内閣官房健康・医療戦略室政策参与に任命された。

現在、内閣官房政策参与のほか、岩手医科大学医学部客員教授、ボストンコンサルティンググループ シニア・アドバイザー、西村あさひ法律事務所顧問、一般社団法人日本在宅ケアアライアンス副理事長なども務めている。

上野 裕明（日本製薬工業協会 会長、田辺三菱製薬株式会社 代表取締役）

1983年に東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了後、三菱化成工業(株)で医薬品の創薬研究に従事。田辺三菱製薬(株)（2007年(株)三菱ウエルファーマ(株)と田辺製薬(株)の合併により発足）で2020年4月に代表取締役社長就任、2023年4月から代表取締役（現任）。同年5月からは、研究開発志向型の製薬企業71社が加盟する日本製薬工業協会の会長に就任。

堀本 勝久（ソシウム株式会社 代表取締役 CEO、創業者）

東京理科大学理工学研究科修了（理学博士）。東京大学医科学研究所、産業技術総合研究所等で、計算システム生物学の研究に従事。産総研在職中、ソシウム株式会社を起業。

現在は、特許技術を組み合わせた独自 AI 解析ワークフローによる受託サービスと自社パイプライン開発を行っている。経験と実績に裏打ちされた「社会実装できる技術」には定評がある。国際誌に査読論文約140、国内国際特許が15ある。

Ling Yang (Vice chairman of Chinese Society for the Study of Xenobiotics (CSSX); Director of the Shanghai Society of Drug Metabolism & Pharmacokinetics; Professor, Director of Center for Systems Pharmacokinetics (CSP) at Shanghai University of Traditional Chinese Medicine)

Professor Ling Yang is Director of Center for Systems Pharmacokinetics (CSP) at Shanghai University of Traditional Chinese Medicine. He received his Ph.D. in Pharmaceutical Sciences of Toyama Medical and Pharmaceutical University (Toyama University) in Japan and was selected into the Chinese Academy of Sciences 100 Talents Program upon his return to China. He has published 400 papers in SCI-indexed journals (cited 14630 times) with an H-index of 60. He was selected as Elsevier's highly cited scholar in the field of pharmacology and Toxicology consecutively in 2020-2023. He is vice chairman of Chinese Society for the Study of Xenobiotics (CSSX) and director of the Shanghai Society of Drug Metabolism & Pharmacokinetics.

Yinfei Yin (VP, Head of Biology and Pharmacology, Shanghai ChemPartner Co., Ltd.)

Dr. Yinfei Yin is the Vice President and Head of Biology and Pharmacology at ChemPartner. The ChemPartner Biology and Pharmacology department was established in 2007 and has a team of over 300 exceptional scientists, offering a comprehensive preclinical service platform, including biochemistry, cell biology, in vivo pharmacology, and ex vivo analytical platforms. The team's primary focus is on critical disease areas, including oncology, CNS disorders, immunology, and inflammatory diseases. Before joining ChemPartner, Yinfei held senior positions, including serving as Head of UK/US Scientific Operations and the Global Imaging Platform at CrownBio. His unswerving dedication to staying at the forefront of scientific advances was evident in his efforts to expand Crown Bioscience's capabilities through the development of advanced service models.

Keni Ni (CEO, ASAHI Pharma Co., Ltd.)

富山医科薬科大学医療薬科学専攻博士後期課程卒。山之内製薬（現アステラス製薬）に入社、26年以上新薬の研究と開発に従事。R&D 第一線の研究員から、チームリーダー、研究室室長、会社戦略チームコアメンバーを務め、非臨床研究と早期臨床開発、研究室マネジメント、会社戦略策定など多面にわたって経験。大手製薬会社から退職後に、アンメットメディカルニーズドリブンを理念に弊社を立ち上げ、2年未満の短期間で、アセット導入、新規データ取得、2つの特許出願に成功。科学論文を多数発表、引用回数 1600 回超。

山西 芳裕（名古屋大学 大学院情報学研究科 複雑系科学専攻 生命情報論講座 教授）

京都大学で博士（理学）の学位取得後、仏国 パリ国立高等鉱業学校、京都大学、仏国 キュリー研究所、九州大学、九州工業大学、名古屋大学等で、バイオインフォマティクスやケモインフォマティクス、機械学習、計算創薬の研究に従事。現在は、日本バイオインフォマティクス学会会長も務めている。著書には、「Chemoinformatics and Advanced Machine Learning Perspectives」（IGI Global）。

白井 宏樹（理化学研究所 計算科学研究センター コーディネーター）

薬学博士。約30年間製薬会社でインシリコ創薬研究。アステラス製薬の専任理事（2012-21）時代に抗体構造予測の世界コンペ（AMAI、ロサンゼルス）で最良成績、英国中心に抗体データサイエンスの国際産学連携の枠組みを構築し牽引。現在理研でスパコン「富岳」の最大活用を模索中。日本蛋白質科学会副会長、アステラス製薬アドバイザー、熊本大学薬学部客員教授、筑波大学大学院バイオインフォマティクス講師を兼務。

藤 秀義（イクトス株式会社 代表取締役社長）

2004年千葉大学薬学部卒、薬剤師免許取得。2009年千葉大学大学院医学薬学府卒（薬学博士）。大学院では、理化学研究所にてスパコンを用いたIT創薬研究に従事。2006年度、薬学出身者初の未踏スーパークリエイターに認定。2009年アステラス製薬に入社。計算化学者としてITやAI技術を活用した創薬研究を推進。オープンイノベーションによる外部連携にも力を入れ、欧州でのMELLODDYコンソーシアムの立ち上げに唯一の日本人として参画。2022年にケモインフォ株式会社を設立後、フランスのAI創薬企業Iktos社の外部シニアアドバイザーを務め、2024年Iktosの日本子会社であるイクトス株式会社を設立し、現在代表取締役社長を務める。

山元 崇（一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム CDMO 部会長、帝人株式会社 再生医療戦略部長）

味の素株式会社にて創薬研究および医薬事業の事業開発業務に 18 年間従事。2016 年に帝人株式会社に入社、2021 年のジャパン・ティッシュエンジニアリング TOB から始まった帝人グループ再生医療事業立上げに関与し、再生医療 CDMO を含む事業戦略全般を担当。現在、帝人(株)再生医療戦略部長、帝人リジェネット(株)取締役、および 再生医療イノベーションフォーラム (FIRM) CDMO 部会長

古石 和親（株式会社セルフファイバ 取締役 兼 最高戦略責任者、Locus Cell Co., Ltd. 社外取締役、株式会社 Office K 代表取締役）

熊本大学薬学部博士前期課程終了、博士（薬学）

約 10 年間、熊本大学薬学部にて教育・研究に従事。その後グローバルライフサイエンス企業でアジアをはじめグローバル事業統括などの経営管理、事業運営・改善、新規立ち上げを主導。現在は、スタートアップベンチャの事業立ち上げ支援を中心としてライフ再センズ事業のグローバル戦略立案、経営コンサルに従事している。経済エコノミストとして年間 100 回を超える講演に、セミナー講師も務める。

鈴木 邦彦（一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム 特定細胞加工物等委員会 委員長、株式会社メディネット 顧問）

早稲田大学政治経済学部経済学科卒。

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了。

エッソ石油株式会社営業職、日興証券株式会社投資銀行業務及び商業銀行業務など、株式会社メディネットにて経営企画業務、事業開発業務及び経営全般を実施。

2011 年 6 月設立の一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム (FIRM) の設立から、運営委員、理事・副会長を経て、2022 年 4 月設立の特定細胞加工物等委員会委員長。

International Society for Cell and Gene Therapy (ISCT) の Asia Regional Executive Committee 及び APAC Industry Committee のメンバー。

金子 新（京都大学 iPS 細胞研究所・教授/副所長、筑波大学医学医療系・教授）

専門は、免疫再生、腫瘍・感染免疫。2002 年博士（医学）取得。日本学術振興会特別研究員、筑波大学血液病態制御医学（血液内科）講師、2005 年サンラファエレ研究所（イタリア）研究員を経て、2008 年東京大学医科学研究所助教、2012 年京都大学 iPS 細胞研究所 同部門准教授、2020 年より、現職、及び、筑波大学医学医療系・臨床医学域 がん免疫治療研究分野 教授。2013 年～17 年 iPS 細胞研究所附属細胞調製施設 (FiT) 施設長、2021 年同研究所附属動物実験施設施設長、2022 年からは同研究所副所長を兼任。

iPS 細胞の特性を生かした免疫再生治療の実現に向けた研究を行っている。

片山 博仁（ノバルティスファーマ株式会社 血液腫瘍領域事業部 細胞遺伝子エコシステムグループ シニアエコシステムリード）

神戸大学修了後、藤沢薬品、アステラス、バイエルで医薬品の新薬探索、製剤研究、工業化研究、工場建設、海外査察、海外技術移転、委受託、工場経営、供給戦略などに従事。

現在はノバルティスファーマに勤務し、細胞遺伝子治療製品の国内委託生産に 2 年間従事したのち、現職。

日本薬局方の準委員を 15 年務め、ISOTC198WG9 の国内主査も務める。無菌医薬品製造技術と工場の国際競争力、品質カルチャーなどの領域を中心に論文多数発表。

下坂 皓洋（アジア細胞治療学会代表理事、財団法人地域医学研究基金研究開発部長）

東京大学農学部農芸化学科卒。キリンビール総合研究所、事業開発部、研究開発本部、医薬事業

本部、キリンアムジェン Director、Miltenyi Biotec Japan 会長、Anosys 会長、Cytotherapy Editorial Board Member、中国医学科学院協和医科大学血液研究所名誉教授、東京工業大学 COE 教授、東京大学医科学研究所学術支援専門職員

秋田 英万（東北大学大学院薬学研究科薬物送達学分野 教授）

2002年東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了。2002年日本学術振興会特別研究員（PD）。2002年（7月）北海道大学大学院薬学研究科助手。2010年（12月）北海道大学大学院薬学研究院准教授。2016年千葉大学大学院薬学研究院教授。2022年より東北大学大学院薬学研究科教授。現在にいたる。

環境応答性脂質ナノ粒子の開発をすすめており、令和元年度日本薬学会学術振興賞（2020年）、第13回日本DDS学会水島賞（2020年）、令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（開発部門）（2023年）を受賞している。

熊谷 新司（田辺三菱製薬株式会社 創薬本部 モダリティー研究所 核酸化学グループ グループ長）

早稲田大学大学院理工学研究科修了。田辺製薬（現・田辺三菱製薬）に入社、メディシナルケミストとして幅広い疾患領域の低～高分子創薬研究に従事。

2015年より、大阪大学薬学部 小比賀聡教授の下で核酸創薬を学ぶ。帰任後、研究基盤構築や独自技術開発に取り組みながら、プロジェクトリーダーとして核酸医薬による希少疾患治療薬の研究を推進。

現在はマネジメントとして戦略策定などをリード。

秋永 士朗（NANO MRNA 株式会社 代表取締役社長 CEO）

協和キリンにて創薬研究と臨床開発に従事し、グローバル開発統括執行役員等を歴任。2017年に核酸医薬に特化した「アキュルナ株式会社」に取締役として参画。2020年吸収合併に伴い取締役・研究開発本部長としてナノキャリアに参画し、2022年12月代表取締役に就任。2023年1月mRNA創薬に特化するビジネスモデルへ転換し、2023年6月29日 NANO MRNA 株式会社に社名を変更。